

<川越市>

川越市役所、令和3年春の怪！！

GoTo 不可解人事異動？！

4月1日、令和3年度の川越市職員の人事異動が発令された。言うまでもなく市の人事異動は、市長の意思決定そのものだ。川合市政新年度の人事異動には川合善明市長の論功行賞が大いに反映されるだろうとの噂が、市政関係者の間には流れていた。

昨年12月の全市議一致の否決、市長選、そして4期目市長として初の3月議会を経た後の人事異動となれば当然だ。

ところが結果は、関係者が「特に変わったところは見受けられない」と感想を漏らす平穏な人事だったという。たとえば昨年の人事異動では、議会事務局のベテラン職員やリーダー格の職員を異動させ、議会関係者より「こんなに職員をいっぺんに異動させて、議事をスムーズに進めることができるのか！」と不満の声があがるなど、川合人事は気分次第、思惑次第と思われる異動が目立っていた。

これまでと比べて4期目市長初の人事は「おとなしい」というわけだ。だが本当にそうだろうか？国政で迷走を続ける「GoTo政策」だが、川合市政ではさしずめ「GoTo不可解人事」から新年度の幕が開く。本紙は一見「控えめ」に見える新年度川合市政人事の周辺事情を、市議と市政関係者たちに取材した。春の怪とでもいうべき、変わったところがないようで不可解な人事異動を発令した川合市政の思惑とは何か？

「川合市長に恥をかかせた」産業観光部産業振興課に

「異変ナシ…という異変」

記憶に新しい昨年12月議会で、川合市政が提出した「川越市産業観光館(蔵里)」新規指定管理者選定議案は、前代未聞の全会一致の否決となった。

川合市政の大失態であり、市を訴えた原告市民を「川合個人への不法行為だ」などと逆に訴える(しかも原告市民22名のうち4名だけを標的にする)ほどの特異な市長である川合

氏なら、本議案の担当職員らに左遷的な降格人事を言い渡すだろうと誰もが確信していた。だが、担当課である産業観光部産業振興課は、今回の人事で異動がなかったのである。いわば、部長・課長は「無傷」で済んだ。これまでの川合市政の体質からいえば、かなり珍しい展開で「異変がないことのほうが異変」とさえ言える。

裏で何が動いたのだろうか？今年1月の川越市長選挙において、川合市長の唯一の対抗馬となった川目武彦氏（元川越市議）の中心的支援者であった木所勝邦氏（三光物産株式会社社長）が、昨年10月頃から川目氏の選挙対策会議に出席しなくなり、「表立って川目氏を応援できなくなった」と周囲に漏らしていたとの話が、市政関係者の巷間に広まった。ちなみに、木所父子は三光物産の会長（勝邦氏）と社長（裕幸氏＝TKM株式会社代表）という関係にある。

ちょうど同時期、市では「蔵里」指定管理者の選定が行われ、結果、息子・裕幸氏のTKMが新たな指定管理者として選定され、父親の勝邦氏は川目氏から支援の手を引いたのである。昨年12月議会において、TKMは議会に蹴られたかたちとなったが、父親の勝邦氏を川目陣営から撤退させることには成功した。

TKMの胸中を知るよしもないが、川合市長に限って言えば、TKMを議決で通すよりも、対抗馬・川目氏の票田を割ることのほうが重要だったろう。そう考えれば、全会一致の否決という醜態を招いた担当部課長らが左遷されなくても不思議ではない。恩赦もしくは怪我の功名を果たした論功行賞の無傷人事というわけだろう。

気になるのはTKMのその後である。選挙直前、巷間囁かれた「川目を支援できなくなった」との木所氏の眩きと川目陣営からの離反は、自ずと川合陣営に籠絡されたと見るのが普通である。ところが議会で否決され、TKMはハシゴを外された。川合市長がこのままTKMを放置すれば、TKMも黙っていないかもしれない。または、TKMは別のかたちで川合市政の公共事業に躍り出るのかもしれない。両者の今後の動向を注視したい。

見送られた出世人事?! 「疑惑の職員女性A氏の夫」はどこに?

今回、4期目川合市政初の人事異動で、本紙がその動きを最も注目していた名もなき職員男性がいる。本紙でも特集してきた新井喜一元市議をハラメント疑惑に巻き込んだ、当時、川越市議会事務局の職員女性A氏の夫・X氏である。

現在は、新井氏が原告となって「職員女性A氏」を訴えているが、女性A氏は部署が変わったものの**現在でも川越市役所職員**である。そしてA氏の夫X氏も当時、**川越市水道局勤務の職員**であった。職員女性A氏は、元川越市議の新井喜一氏にパワハラやセクハラを受けたとして、よりもよって議会開会の真っ最中に弁護士と並んで派手な記者会見を2度もぶち上げた、ある意味では豪傑である。

しかし、常識で考えれば議会事務局の新米である職員女性が、議会を混乱させるような市議の実名告発記者会見を強行し得る可能性は極めて低い。職員女性A氏の夫・X氏は、とばっちりの報復人事を打たれてもおかしくない。

ところが、市の職員らが驚くことが起きた。A氏の夫・X氏は、新井氏事件の騒動が収まらない中、**川合市長の推薦によって自治大学校に送り出された**のである。

自治大学校とは、日本唯一の地方公務員の中央研修機関であり、毎年、全国の自治体から優秀な公務員が選抜されて、より高度な専門教育を受ける**公務員のエリートコース**である。まるで、**女性職員A氏が新井氏を告発**（無論、A氏によるでっち上げ告発）したことが、なにかしら川合市長にとっての功労でもあったかのように、その**夫は栄転**した。

では4期目川合市政でこの**職員夫婦の人事異動**はどうなったか？

疑惑の職員女性A氏は前年度と同じ部署に留まったが、夫・X氏は、なんと本庁舎の中の部署ではなく川越駅西口連絡所に異動になったのである。市役所の事情通によれば**「A氏の夫の異動先は、エリートコースとは言い難い」**という。

少なくとも、自治大学校に行った者が異動を命じられるポストではないようだ。これはいったい何を意味する人事なのだろうか？ 異動するであろうと予想されていた職員は異動せず、エリートコースに乗ると思われていた職員は本庁舎勤務にもならなかった。

4期目に入っても川合市長の人事には**「不可解」**がついて回る。

川越市議会3月議会番外編—最終日追加議案の人事案件

市議に「会派を挙げて阻止」された「川合市長人事」とは？

さて人事異動ウォッチングついでに、先月、閉会した令和3年度3月議会最終日に追加議案として、川合市長が上程した**川越市行政委員の人事案件**にも触れておく。

行政委員とは、市から独立した権限のもとで公共の業務を行う合議制の機関のことだ。一般的に馴染みがある行政委員としては教育委員会や農業委員会、監査委員会などがある。市から独立した機関であるが、委員は**首長が議会の同意を得て選任**する。

これらは**「同意案件」**といい、「**今度の教育委員には誰某さんを任命します**」という、特に議論の必要もない、市長が議会に承認してもらうだけの議案だ。当然、この場で物議を醸す議案は登場しないことが普通である。しかし、そこは強烈な個性が売りの川合市政である。この人事において議会開会中、市長からの上程前に、市議らの間で噂となっていた案件が2つあった。**ひとつは**、公平委員会委員もしくは固定資産評価審査委員会委員に、1月の市議補欠選挙で当選した**倉嶋真史市議の母親で元市議の倉嶋美恵子氏**の名前が上がったことである。

※公平委員会＝職員の勤務条件や処分等の審査などに関する事務を行う。

固定資産評価審査委員会＝固定資産の評価額に対する不服の審査・決定を行う。

現職市議の肉親が行政委員に選任されるなどは、不可解を乗り越えて異常である。本紙は、倉嶋市議の所属する会派の川口啓介市議と樋口直喜市議に話を聞いた。するとこの人事案については「**会派を上げて大反対している**」という。

もしも倉嶋市議の母親が行政委員に選出されれば、市長と市議の癒着や適切でない関係が疑われ、倉嶋市議の議員としての資質の問題も問われることになるからだ。

ちなみに1月の市長選挙時、自民党は川合市長を支援したが、市議補欠選で川合市長はなんと自民党公認の荻窪利充氏に見向きもせず、倉嶋真史氏を応援するという掟破りを演じて見せた。川合市長の写真入りで「**私も応援しています 川越市長・川合善明**」とのコメントまで掲載された倉嶋氏のポスターを見た市政関係者は一様に呆れ返ったという。行政委員は市長の選任人事だが、無論、その前に本人の合意を得なければならない。この事案でいえば、倉嶋氏の母親で自らも元市議の倉嶋美恵子氏が、川合市長からの行政委員の打診に頷いたということになる。

こうなると、倉嶋母子は川合市長の掌に乗せられるのも同然ではないか。この人事案を、**会派を挙げて阻止しようという川口・樋口両市議**の意思は、同時に、市民に倉嶋市議の信を問うてもいる。当の倉嶋市議はどう考えているのだろうか？

「不正市道認定」の陰の仕掛け人？「吉敷氏が監査委員」に？！

もうひとつ、川合市長が監査委員として3月議会に上程しようとしていた名前があった。元市議の吉敷賢氏である。この吉敷氏は4年前にも監査委員に名前だけは上がったが、結局議会へ上程される前にボツになった。吉敷賢氏といえば、不動産業者の肩書を持ち、先日裁判が結審した住民訴訟の事件の発端となった寺尾大仙波線の代替地問題を、齊木隆弘氏と共に川合市長へ持ち込んだ張本人である。

裁判の結果に関わらず、そもそも住民に訴えられる事件を市政に持ち込んだと言っても過言ではない人物を、市の監査委員に選任しようとする川合市長は被告ときている。常識以前の異常な人事センスとでも言おうか、議会からは相手にされない様相で、4年前も今回も川合市長が吉敷氏を監査委員に上げようとするが議会には出てこなかった。議会関係者の間では「**あれ(吉敷氏)だけはダメだ**」と言われているのだという。そこまで嫌われている人物しか任命の選択肢がないとは、川合市長の人脈はひどく貧しいようだ。

特に行政委員は民間人であるため、どこの自治体でもその選任には首長が議会与党と相談しながら進めることが普通である。ところが、川合市長は議会との連携もない。

まさに「**裸の王様**」は、4期目もまた「**裸**」のままのようだ。